

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071300382
法人名	社会福祉法人 聖愛会
事業所名	グループホーム南山苑
所在地 (電話番号)	和歌山県伊都郡高野町高野山44-22 (電話) 0736-56-4990

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成 19 年 11 月 9 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 6 日

【情報提供票より】(19年8月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート鉄骨造・亜鉛メッキ銅版葺 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,880 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380円			

(4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.25 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高野山病院、松岡歯科医院、聖愛会診療所
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者と職員が一線を引かず、共に大家族の一員としてのケアを目指しており、それが生き生きとした利用者の表情からうかがうことができ、利用者が利用者を誘導する姿も見られた。利用者の持てる能力を引き出すため、それぞれの得意分野での役割や楽しみごとを支援し、職員も年長者の経験に学ぶ姿勢で対している。共同室の壁に家族が筆で書いた思い出の歌詞を貼り、ハーモニカ演奏に合わせて歌うなど、日々を楽しく過ごせるよう工夫している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の習熟度や経験の段階に応じた研修については、法人内の研修や県内外の研修に積極的に参加している。利用者の外出支援については、寒冷地であり、周辺に山が多く道に迷いやすいとのことで、春から秋にかけて山菜採りや野の花摘みなど、或いは紅葉ツアーや買い物ツアーなど多様な外出支援を行っている。グループホームの運営理念や役割の地域への理解と啓発への働きかけは、今後の運営推進会議の開催等を通じてなされることを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員がそれぞれ評価したものを管理者がまとめた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は開催されていない。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>主に面会時に家族の意見や苦情を聞くように努めており、苦情があった場合は管理者に報告し、職員間で話し合い、運営に反映させるようにしている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として、近くの保育所の運動会や、町全体で行う青葉祭り、町福祉大会(子ども達の演芸もある)等に参加し、地元の人々との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間としての尊厳を大切にし、利用者の個性を活かし、意欲的な生活を送ることができるよう支援する趣旨の独自の理念を作り上げている。	○	制度改正で「地域住民との交流の下で」と、地域との関係性が重視されるようになったので、これまでの理念に地域密着型サービスとしての役割を加えることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は利用者の尊厳を大切にし、笑顔のある、ゆとりをもった生活を念頭において、日々の業務に取り組んでいる。	○	理念を職員全体で協議作成する過程において、職員が理念を共有し、日々の実践に活かされるよう望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として、近くの保育所の運動会や青葉祭り、町福祉大会などの行事に参加し、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員が評価したものを管理者がまとめた。前回の外部評価のうち、職員の研修会参加への体制づくりや日常的な外出支援等は、職員会議等で検討し、改善に向けて努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、構成員の選定が行われているが開催に至っていない。	○	運営推進会議は、構成員からホーム運営に関する意見を頂くことにより、サービスの向上を図り、地域の理解と交流の糸口ともなると考えるので、開催の方向に努力されるよう希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームに関し、町との連携は特に取られていない。	○	町の関係課とは、現場で直面している運営やサービスの課題等があれば相談するなど、連携を密に行うよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは写真や手紙で、健康状態に変化があればその都度電話で連絡している。金銭については月初めに出勤の依頼書、通帳のコピーや一ヶ月の行事予定表を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来たときに、「意見などがあれば申し出て下さい」と言っている。苦情があれば管理者に伝え、職員間で話し合っ、運営に反映させている。法人として、アンケートを入れる箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が利用者にも与える影響が大きいので、できるだけ最小限に抑えるようにしている。新しい職員が来たときは、本人を紹介し近くに座ってコミュニケーションをはかり、早く顔を覚えてもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上のため、法人の行う外部の講師による研修会に参加している。また県内外で行われる研修にも積極的に参加している。なお新しい職員が入ったときは、管理者がついて入浴や掃除の注意点について教えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加入し、昨年からは相互実習を行い、当ホームから職員が2名他ホームの実習に参加した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と見学に来て、ホームの雰囲気や、利用者がどのように過ごしているかなどを見てもらうが、入居のはじめは、職員と徐々に顔馴染みになるよう声かけして接している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は大家族の中の一員と考えて、漬物の漬け方、寿司の巻き方、餅の丸め方や言葉遣いなど、年配の人に教えてもらう態度で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を利用者の言動で察するように努めているが、それができない場合、家族に尋ねて本人の希望や意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会に来ることが多いので、家族の意見や希望を聞き、職員からの情報を取り入れて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直すとともに、本人の健康状況や家族の希望等に変化があればその都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が通院を要する場合は高野山内であれば、ホームで移送(通院)サービスを行っている。また遠隔地への紅葉ツアーやショッピングなどの外出の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院等のかかりつけ医に定期的に受診し、その結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について入居時に説明しており、重度化の兆候が現れたときに、家族やかかりつけ医と終末期の対応方法について話し合うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が言葉遣いや対応に注意し、利用者の誇りを傷つけないようにしており、排泄を漏らしたときなども、恥ずかしい思いをしないよう言葉遣いに配慮している。また記録等の個人情報の秘密保持にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がどのように過ごしたいか、一人ひとりの希望やペースを大切に、明日にできることは明日にするなど、職員側の決まりを優先しないように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には多様なメニューが用意され、なごやかな雰囲気の中で食事をしている。なお利用者が準備や後片づけを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は試行の後に、利用者の希望により、基本的に毎日、午前中に入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとり一人の生活歴を活かし、調理の手伝いや掃除、花や野菜の水やり、その他縫い物、手芸、ハーモニカに合わせた歌、踊りなど、各人の役割や楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺に山が多く道に迷う可能性があり、寒冷地なので冬は車での外出になる。春から秋にかけて山菜取りや野の花摘み、野外での食事、散歩などに、できるだけ出向くようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の出入り口は夜間だけ施錠している。居室は利用者に施錠を任せているが、安全の確認のため職員が入ることを話し合いで了解してもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体が年2回行う消防訓練に全員が参加し、地震や防火用の頭巾をかぶり、避難訓練を行っている。また訓練には地域の役員が参加している。新任職員が来たときも訓練の仕方を教えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が管理した献立により食事を作っている。水分は午前10時、午後3時にお茶の時間を設け、各種の飲み物を用意し、またいつでも飲めるようにしており、毎日の水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同室にはソファーや椅子を置さくつろいで話しができて、バックミュージックの音や室内の明るさも適当と感じられた。季節の花を飾り、壁には行事の写真や塗り絵、懐かしい歌詞などを貼ったりしている。また浴室には南国調の椰子や富士山の絵を飾り、くつろげる雰囲気をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族がなじみの小さいテーブルや家具を持ち込み、それぞれ生け花や手芸品などを置き、壁面には手づくりのカレンダーや塗り絵を貼ったりして、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		